

【執筆者紹介】

武内文治（たけうち・ぶんじ）

1954年生。高校時代は江戸アケミ（じゃがたらリーダー）と土曜日には寝袋をもって旅にでた。旧大正町役場に拾ってもらって以来30年、情報共有を仕事の基軸とした。退職後は「三屋清左衛門残日録」風と考えていたが、松浦武四郎の歩き方を真似して「旅人宣言」。「四万十町地名辞典」ホームページ編集子。

楠瀬慶太（くすのせ・けいた）

1984年生。高校時代の趣味は史跡巡り。大学で日本中世史家・服部英雄氏から地名の面白さを学び、地名・歴史研究に目覚める。以後、暇があれば集落へ出かけて地名民俗の聞き取り・記録に邁進中。2012年に掲唱した「地域再生の歴史学」の社会実装がライフワーク。高知新聞記者、高知工科大学客員研究員。

森下嘉晴（もりした・よしはる）

1966年生。高校卒業後、地下足袋を履いて四国の国有林を転々とする。15年ほど前より油絵とマップ制作をライフワークとしながら、いつかは森の精となるべく日々修行中。林野庁四国森林管理局高知中部森林管理署勤務。

神田修（かんだ・おさむ）

1971年生。長野県上田市出身。慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。30年前に四万十川へ遊びに来て以来のめりこみ、13年前に四万十市の山奥に移住。趣味は川遊び。公益財団法人四万十川財団事務局長。

山崎眞弓（やまさき・まゆみ）

1955年生。高知市出身。高知県庁職員（2019年退職）在職中から農村ツーリズム、農家民宿に取り組む方々とおつきあいさせていただいています。『農家民宿はこぼの四季—四万十町大正中津川の暮らし』（南の風社、2014年）編著。地域に昔から残されてきている物語にいつも心惹かれています。高知大学地域協働学部客員教授。

田中孝子（たなか・たかこ）

1945年生。島根県出身。立正大学大学院修了。主人の定年退職を機に土佐清水市にUターン後“歩き遍路”に挑戦。これをきっかけとし1冊目は内子民俗を、2冊目は大洲内子の民俗について著書を執筆。現在は『幡多郡とその周辺の民間信仰と大師信仰』を執筆中。愛媛大学四国遍路と世界の巡礼研究センター賛助会員。

岡林悠太（おかばやし・ゆうた）

1984年生。奈良大学史学科卒。同大名誉教授・鎌田道隆氏に師事し、「実験歴史学」を学ぶ。江戸時代の伊勢参りを再現し、旅装束で伊勢本街道を歩いた。同大学在学中に宇土藩境争論を研究。大学卒業後、銀行勤務で各地に転勤する中、それぞれの地域の史跡巡りをしている。

山崎徹（やまさき・とおる）

1996年生。高知市出身。大学院の指導教授・橋詰茂氏から、史料の読み込みや現地調査の大切さを学ぶ。また「海の時代」「海からの視点」に強い影響を受け、現在、中近世における土佐の港を研究中。土佐歴史研究会代表。